

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑧放課後児童クラブに通う子どもの育成支援

- ◆ 今の時代に求められている、育成支援や国や自治体の求める部分、そして放課後児童クラブにおける育成支援の内容の理解ができた。子どもの視点から見た育成支援のあり方と、支援する側の主体的な関わりや主体的な支援について考える機会となった。また、個人情報に気をつけながらも育成支援の記録と職場内での情報共有や事例検討の必要性についても理解することができた。
- ◆ 子どもが安心して過ごせる場所をつくってあげること、保護者・学校・地域との連携をすることが大切だということ、子ども一人ひとりの顔を見て迎えてあげることが大切だと感じました。子どもの出欠がないときや、学校から帰ってくるのが遅いときは、学校や保護者への連絡も早めに行きたいと思いました。子どもたちの意見にも耳を傾け、子どもたちが悩みや相談事も話せるような信頼関係を築いていきたいです。
- ◆ 子どもの遊びと安心な生活の場であり、生活習慣・協調性・自主性も育成する場であると学び、改めてもっと細やかな目配りで、一人ひとりの特性にあった声かけ、対応が大事であると思いました。また、日々の小さな出来事でも記録し、職員間、保護者等で共有し同じベクトルで見守ることが子どもにとっても大きな安心感や信頼に繋がることになり、記録し続けることの大切さを学ぶとともに、事例によっては検討し育成支援の充実と改善に努めていきたいです。
- ◆ 子どもたちが来たいと思える環境づくりや何事にも対応できる力が必要だと思えた。基本的な生活習慣は当たり前身に付いていくものだと思っていたが、当たり前ではなく、今できていないのであれば丁寧に説明し、身に付くように教えるのが私たちの仕事の1つであると理解した。いじめなどがもし起きてしまったら、しっかりと状況把握をし、適切に援助しなくてはならないのだと改めて身が引き締まる内容に思えた。
- ◆ ある日、「早く帰りたい。一分で100万円稼げる仕事とかだいいのに、、、」とつぶやく子に、家族と過ごしたいのだと感じられほっこりした。一方で、帰りたくないという子の「なぜ？」がなかなか尋ねられずにいる。引き出すことも必要だと思うが、傾聴の姿勢で話したくなるのを待つのも大切だと思っている。まずは、一人ひとりに笑顔で挨拶することは心がけ、話しやすい環境を継続していきたい。